

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2019年10月) 第116号

活動日 2019年 10月 27日(日)	時間 9:30~13:00	天候 (晴)	記録者 (菅田)
公募参加者 10 家族 26 名 スタッフ 13 名	(スタッフ) 伊牟田雅子、菅田忠志、塩ノ谷年子、清水英暢、俵貴志子、 田路義弘、中西 優、中原 一子、橋野美子 松本治美 山田喜義 米倉 進、若尾孝子		
今回実施した 内容	<p>親子カブトムシ生育観察会(2019年第3回 新生幼虫観察)</p> <p>親子自然体験型環境学習として企画し、(公財)こうべ市民福祉振興協会の協力を得て公募した2019年度『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り学ぶイベント。今回は3回シリーズの3回目。</p> <p>(1) 7月に羽化した成虫が産卵し、孵化した幼虫もこの時期はすでに2度の脱皮をし、大きく成長してきた3歳幼虫の観察を行い、自宅で飼育するため2匹ずつ持ち帰り。</p> <p>(2) 昨年植えたクヌギの実から育った苗木の植樹をしてもらった。</p> <p>(3) 今回の後半の時間では、植樹後秋の里山を観察しながら林内で集めたいろいろな木の葉を使った『木の葉ビンゴ』を作り、標本教材として持ち帰ってもらった。</p>		
写真記録	   <p>植樹用クヌギの苗木の準備も。</p> <p>参加者も集まりはじめ、受付開始。</p>		
<p>今回のスタッフによる今日の進行内容確認など受入準備も完了。</p>    <p>今年成虫まで育った【昨年からの古い腐葉土(左)】と、【今年チップから作った産卵場所(中)】、まだ腐葉土になっていないものの、親はしっかり新しいチップに産卵していたらしい。幼虫の大半はチップの場所から確認された。</p>			



さあ 飼育ケースを渡すので、元気そうな大きく育った幼虫2匹を選んで持ち帰って自宅で育てるんだよ。
しっかり冬を越して来年の夏にカブトムシになって出てくるまで観察してください。



【後半の活動 ①=クヌギの植樹】

今からみんなで大きなどんぐりの実がなるクヌギの苗木の植樹をしてもらうよ。家族ごとに一鉢ずつ植えてもらうので運んで…。





子どもたちにとっては多分はじめての体験。あらかじめ掘っておいた小さな穴を掘り下げる大きし、そこに植樹。水をやり、支えをたて、名札を付けて完了。



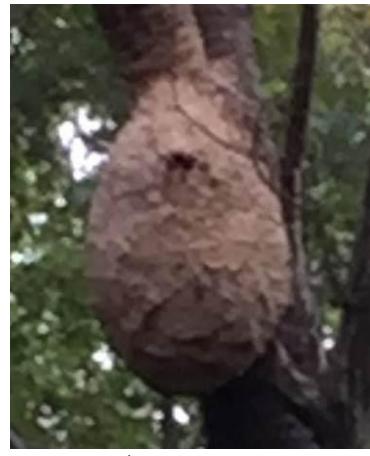
○○君は昆虫探しの名人。
カマキリ見つけ！
そのすぐ後カマキリの卵も見つけて大満足。
去年は机の引き出しから羽化したこどものカマキリがウジャウジャ出てきたとか言ってたね。少なくなった「昆虫少年」がんばって！



植樹の往復路では、下山後行う「木の葉bingo」で使ういろいろな葉っぱを集めながら進む。



イベント直前の活動日に見つかったキイロスズメバチの巣。縦50cm、幅40cm位はありそうな大きさ。観察コースからは20mほど離れてはいるが、ロープでしつかり仕切りをし、参加者のみなさんには離れたところから静かに観察してもらった。12月以降は空き巣になるので教材用に回収可能か検討したい。このままでも落ちないようならそのままに。



キイロスズメバチは、このように木の枝や軒下に巣を作るが、さらに大きいオオスズメバチは土中に作るので見つかりにくい。要注意！

【後半の活動 ②=木の葉のbingoづくり】



集めてきたいいろいろな形の葉や、いい匂い・くさい匂いのする葉、とげや産毛・ギザギサのある葉など特徴のある草木の葉をbingoシートに貼り付けていく。“きれい”などのシートも素敵な植物標本に仕上がった。



これで今年度の観察会もおしまいです。子どもたちの作品発表では「楽しかった」「来年も来ていの？」との感想や希望の声も…。

来年も募集チラシを見つければ応募していいよ。

スタッフのみなさんもお疲れ様でした。



この事業は、令和元年度子どもゆめ基金の活動助成金で実施しました。